



シリーズ
タンチョウ
Vol. 369

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

櫻井真弓

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



KODOMO湿地交流 タンチョウ子ども交流ツアー ～長沼編～

9月号では、夏休みに長沼町の子どもたちを招いて行なった「タンチョウ子ども交流ツアー鶴居編」の様子をお伝えしました。その鶴居編に続き、10月に長沼編が行なわれ、10月5日・6日の1泊2日で村の小中学生7人と長沼町に行ってきました。長沼編には、美唄市宮島沼で活動するマガレンジャーの子どもたちも加わり、初めての3市町村交流となりました。

1日目は長沼町のガイドの方やデントコーン農家の方からお話をお聞きしたり、長沼町の舞鶴遊水地を使って繁殖・子育てをしていたタンチョウ家族を、バスの中から観察しました。子どもたちは、デントコーン畑の散策やタンチョウ観察ですっかり打ち解け、1日目の活動終了後のまとめの時間では、3市町村の子どもたちが協力して取り組んでいました。

宿泊は、美唄市の子どもたちと一緒に、栗山町の宿泊体験施設を利用しました。ホテルとは違い、寝具の準備なども自分たちで行います。子どもたちの部屋の様子を見に行くと、どの子も協力しながら寝床の準備をされていて、私が手を貸す必要はありませんでした。これも良い経験になったと思います。夕食後には、鶴の動きを学べる「タンチョウさんが転んだ」というレクリエーションで、楽しい時間を過ごしました。



「タンチョウさんが転んだ」の様子

2日目のメインの活動は、舞鶴遊水地を流れる小川での生きもの探しです。つるいっ子たちは、9月にタンチョウが餌場として利用している冬期自然採食地の小川で生きもの探しをしています。遊水地の小川には、鶴居では見られなかった虫や魚もいて、見たことがない生きものに子どもたちは大はしゃぎです。捕れた生きものについての解説の時間もあり、タンチョウの餌にもなる水辺の生きものへの興味と理解が深まったと思います。

今回の長沼編では、子どもの頃に、この交流事業に参加した高校生と高専生が、スタッフとして子どもたちの活動をサポートしてくれました。参加した子どもたちは、村から釧路市内に通学するお兄さんお姉さんを、身近に感じたことでしょう。KODOMO湿地交流の取り組みが、村内の世代間交流の機会となったことも、継続的な交流事業の成果の1つだと感じました。



舞鶴遊水地をバックに記念撮影